免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：国　　語

１．教科の特色・目的

中等教育教員養成課程の国語専攻は、中等教育に関する高度の理論と実践力を兼ね備えた中学校および高等学校のすぐれた国語科教員を養成することを主な目的としています。

２．専門教育の内容（レベルを含む。）

目的を達成するために、４年間で履修しなくてはならない１２８単位のうち、国語学・国文学（古典文学、近代文学）・漢文学・書道の４領域に関する教科専門科目（４８単位）を１年次から段階的に履修し、また、教職専門科目（２６単位）の中の国語科教育指導法に関する科目（８単位）も２年次から段階的に履修することになっています。このように各専門領域に関する多くの講義・演習科目を開設し広範で、しかもより高度な専門性を十分に身につけることができるような教育を行っています。また、国際化、情報化社会の進展する中で特に重要視されている表現力の育成についても、音声言語表現、文字言語表現の両面について指導実践力を高めるようなカリキュラムを編成しています。

レベルとしては高等学校国語科（古典を含む）における一定水準以上の学力を前提としていますので、充分な学習が必要です。

３．主な授業科目

国語学概論（音声言語、文章表現に関するものを含む）、国語学講義、国語学演習、
国文学概論（国文学史を含む）、国文学史、古典文学講義、古典文学演習、
近代文学概論、近代文学講義、近代文学演習、近代文学講読、中国古典学概論、
中国近代文学講義、中国古典学講義、中国古典学演習、中学書写指導、
中等国語科指導法Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ

４．本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

特別支援教育教員養成課程の学生は、取得する免許状に応じて、次のように履修することになります。中学校国語一種免許状は、「国語学概論」、「国文学概論」、「中国古典学概論」、「中学書写指導」の４科目８単位を含め、計２０単位を修得しなくてはなりません。中学校国語二種免許状は、上記の４科目８単位を含めて、計１０単位を修得しなくてはなりません。高等学校国語一種免許状は、「国語学概論」、「国文学概論」、「中国古典学概論」の３科目６単位を含め、計２０単位（但し、「中学書写指導」を除く）を修得しなくてはなりません。

５．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

２で述べたとおり、古典を含む高等学校国語科の学習領域に関する充分な学習が必要です。

６．その他（提出が必要な書類等）

特に必要ありません。

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：社　　会

１．教科の特色・目的

中等教育教員養成課程の社会科専攻では、多くの困難な状況に直面している現代の教育を切り開くために、広い学芸に関する理解と自由な発想による思考力の育成に基づいた専門性と創造性を重視した教員養成をめざしています。

２．専門教育の内容（レベルを含む。）

中等社会科が含む専門の分野は、歴史学や地理学から政治学や社会学、哲学まで、大変幅広いものです。分野の広さに応じて多くの専門科目を開設していますが、それらを三段階に分けてとらえています。第一に、ある学問分野の本質や基礎的体系を明らかにする科目（「概論」科目など）、第二に、ある学問分野を深く研究して専門的資質の向上をはかる科目（「講義」・「特講」など）、第三に、専門的な研究のために必要な知識、概念、方法などに習熟していくための少人数制の科目（「演習」・「実習」科目）です。これらを通して段階的かつ体系的に学べるようになっています。

３．主な授業科目

地理学概論、歴史学概論、哲学概論、法律学概論、政治学概論、社会学概論、
経済学概論、人文地理学講義、自然地理学講義、外国地誌講義、日本史概論、外国史概論

４．本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

中学校社会科免許取得のためには、上記の「概論」科目のうち、地理学概論、歴史学概論、哲学概論の３科目６単位が必修で、法律学概論と政治学概論のいずれかを、社会学概論と経済学概論のいずれかを選択必修（計４単位）して、計１０単位を修得した上に、その他の科目から計１０単位以上、合計２０単位を修得することになります。

また、残りの「概論」科目やその他の専門科目を積み上げることによって、高等学校の「地理歴史」、「公民」の一種免許を取得することができます。なお、これら以外に教職専門科目の枠内で、教科教育法に関連する科目の中から所定の単位を修得する必要があります。詳細については、入学時に配布される『履修の手引』を参照して下さい。

５．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

特にありません。

６．その他（提出が必要な書類等）

特に必要ありません。

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：数　　学

１．教科の特色・目的

中学校・高等学校の数学科教員を養成することを目的とし、数学の専門的な知識だけでなく、数学的な見方や考え方などを幅広く身につけ、数学的表現力や数学教育の実践力を培うことができるよう工夫しています。

２．専門教育の内容（レベルを含む。）

数学の基礎的な授業科目として、「線形数学概論」、「微分積分学概論」、「数と集合」、「線形数学Ⅰ」、「線形数学Ⅱ」、「微分積分学Ⅰ」、「微分積分学Ⅱ」を履修し、その上に代数学、幾何学、解析学、応用数学（コンピュータを含む）、数学科教育などの専門科目を履修します。授業内容は、高度で充実したもので、高等学校で学ぶ数学の知識を自由に使いこなせることを前提として授業が行われます。専門的な内容も含まれますが、これらは中学校・高等学校の教科内容の背景となるものであり、その内容との関連性を十分持たせるように工夫しています。

３．主な授業科目

線形数学概論、微分積分学概論、数と集合、線形数学Ⅰ、微分積分学Ⅰ、集合と位相、線形数学Ⅱ、微分積分学Ⅱ、位相空間論、コンピュータ、代数学、幾何学、解析学、確率・統計、数学科教育概論、数学科教育内容論、数学科教育教材構成論、数学科教育授業構成論

４．本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

高等学校の数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ａ・Ｂの単位を取得していること。また、高等学校で学ぶ数学の内容をしっかり理解していること。

５．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

学ぶ数学の内容をしっかり理解していること。

６．その他（提出が必要な書類等）

特に必要ありません。

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：理　　科

１．教科の特色・目的

理科は，自然事象を対象として観察，実験を行い，得られたデータを基に事象の仕組みや原理を解き明かす教科です。自然事象を解き明かすプロセスで育まれる思考力，判断力，表現力は，他の分野の種々の問題解決に活用できる能力となります。中等教育教員養成課程理科専攻では，中学校及び高等学校の生徒に対して，自然事象に対する興味・関心を抱かせ，自然から学ぶ楽しさを体験させることができる実践力ある中学校・高等学校教員を育成することを目的としています。

２．専門教育の内容（レベルを含む。）

理科では，物理学，化学，生物学，地学の基礎学力を習得し，さらに，自然科学の多様化や，コンピュータをはじめとする科学技術の高度化に対処できる知識，技能の獲得を目指します。そのため，基礎から最先端の話題に至るまで，自然科学の知識・技能を組織的かつ体系的に学習し，専門性をスムーズに高めていけるようにカリキュラムを工夫しています。

３．主な授業科目

（１）教科専門科目：２０単位以上（注：教員免許法では入学時に配付予定の「履修の手引」に〇印を付した科目を含めて最低２０単位を修得することが決められています。）。物理学概論，物理学実験Ⅰ，化学概論，基礎化学実験Ⅰ，生物学概論Ⅰ，生物学実験Ⅰ，地学概論Ⅰ，地学実験Ⅰの科目（以上〇印科目）を必ず含めて，教科専門科目の必修科目（物理学続論，物理学実験Ⅱ，有機化学Ⅰ，基礎化学実験Ⅱ，生物学概論Ⅱ，生物学実験Ⅱ，地学概論Ⅱ，地学実験Ⅱ）の中から，２０単位以上を修得してください。

（２）教科の指導法科目：８単位　中等理科指導法Ａ，中等理科指導法Ｂ，中等理科教育演習Ⅰ，及び中等理科教育演習Ⅱの８単位を必ず修得してください。

４．本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

（１）中学校及び高等学校の免許教科は理科となるため，物理学，化学，生物学，地学の全ての科目について，幅広い知識と技能を習得することが求められます

（２）時間割上の制約のため，大学１・２年生の指定された開講期において履修することが困難な科目がある場合には，上級学年（３・４年生）になって，それらの科目を受講することになります。

５．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

「物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎から２科目及び物理，化学，生物，地学から１科目」を履修しているか，あるいは，「物理，化学，生物，地学から２科目」を履修していること。

６．その他（提出が必要な書類等）

特に必要ありません。

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：英　　語

１．教科の特色・目的

中学校・高等学校の英語教師の養成を目的としています。授業実践力及び英語のコミュニケーション能力を持った教師の養成を目指しています。

２．専門教育の内容（レベルを含む。）

英語の教師として十分な英語運用能力と専門的な知識を幅広く身につけます。授業科目についているローマ数字はレベルを示しています。「Ｉ」は初心者向けの授業で、それが開講されている期に準じた英語力を想定した内容の授業が行われます。「ゼミ」ではさらに高度な内容の授業が行われます。

３．主な授業科目

「英語学入門」、「英米文学入門」、「英会話Ｉ」、「英作文Ｉ」、「英語文化論」、「英語音声学」、「英米文学研究」、「英語コミュニケーション論」、「アカデミック・イングリッシュ」、「英語教育概論」、「中等英語科指導法Ａ」など。

４．本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

具体的な履修方法については「履修の手引」を参照してください。中等教育教員養成課程の英語専攻の学生に要求されているよりも少ない単位数で教員免許状が取れてしまうので、教科の専門的知識や英語運用能力に差がつかないように、授業外での自主的な研究・勉学が相当量望まれます。特に英語運用能力に関しては、これからの中学校教師にはますます高いものが求められてくるために、授業外でも計画を立てて継続的に努力をしてください。

５．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

特にありません。

６．その他（提出が必要な書類等）

特に必要ありません。

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：音　　楽

１．教科の特色・目的

中等学校（中学校・高等学校）での多様な音楽的諸課題に対応する力を養い，学校教育を担うことのできる豊かな教養，音楽に関する幅広い専門的な知識と音楽実技，高い教育実践力を兼ね備えた人間性豊かな音楽教育教員の養成を目指しています。

２．専門教育の内容

本専攻では,音楽実技（ピアノ・声楽等）音楽理論及び作曲・音楽科教育の三つの領域を学び、高い専門技能・知識を身に付けます。

音楽実技は，中等学校現場で実技指導ができる実践力を習得します。

・ピアノ実技では，歌唱共通教材及び合唱指導等で必要とされる技術を，様々なピアノ作品を通じて習得し，音楽実践力を養います。
・声楽実技では，歌唱共通教材及び合唱の発声・音楽表現指導ができる技術を，様々な声楽作品を通じて習得し，音楽実践力を養います。
・音楽理論及び作曲では，学校現場で必要とされる音楽史・日本の伝統音楽及び諸民族の音楽，創作について指導できる知識を習得し，音楽実践力を養います。
・音楽科教育では，学習指導要領を理解したり，授業参観，模擬授業等を通じて，音楽科の授業設計や実践をおこなうために必要とされる基礎的な資質・能力を養います。

３．主な授業科目

ソルフェージュⅠ，声楽Ⅰ，ピアノⅠ，指揮法，音楽理論基礎，作曲法Ⅰ，
伝統声楽，邦楽器，中等音楽科指導法Ⅰ，中等音楽科指導法Ⅱ
これらの授業科目受講期間中は，毎日90分程度の予習・復習が必要です。

４.本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

２．で示した内容を踏まえて，音楽を免許教科として選択するためには，以下に示すように，中等教育教員養成課程音楽専攻の入試課題に準じた音楽的知識や実技に関する学習経験を有していることが必須の条件となります。

【音楽理論】

〇音楽理論（楽典）に関しては,中学校及び高等学校の教科書で取り上げられている音楽史や日本の伝統音楽及び諸民族の音楽について，その基礎知識を理解していること，また楽典のテキスト「楽典-理論と実習」（石桁真礼生、他／音楽之友社）を通読し，その内容を習得している必要があります。

【音楽実技（ピアノ及び声楽）】

〇ピアノに関しては，大学入学後の授業を受講するに際して必要なピアノ演奏法について，ピアノ専門の指導者のもとで一定期間【8年以上】の学習経験があること，また中等教育教員養成課程音楽専攻の入試課題に準ずる下記に示したピアノ作品を学習し，演奏している必要があります。

「ベートーヴェンのピアノ・ソナタから5曲以上」
第5番 op.10 no.1，第7番op.10 no.3，第11番 op.22を含むこと。
もしくは，これに準ずるソナタを含むこと。

〇声楽に関しては，大学入学後の授業を受講するに際して必要な発声法を,声楽専門の指導者のもとで一定期間【2年】の学習経験があること，また中等教育教員養成課程音楽専攻の入試課題に準ずる下記に示した声楽作品を学習し，演奏している必要があります。

「イタリア歌曲集第1巻（全音楽譜出版社版）」の中で，下記の声楽作品の演奏ができること。

・スカルラッティ作曲：Sento nel core
・スカルラッティ作曲：Se tu della mia morte
・ガスパリ―ニ　作曲：Caro laccio
・作曲者不詳　　：Sebben,crudele
・パリゾッティ　作曲：Se tu m'ami
・ジョルダーニ　作曲：Caro mio ben

「日本歌曲名歌集【原調版】(音楽之友社版)」の中で，下記の声楽作品の演奏ができること。

・瀧　廉太郎　　作曲：花
・瀧　廉太郎　　作曲：荒城の月
・山田　耕筰　　作曲：かやの木山の
・信時　潔　　作曲：北秋の
・成田　為三　　作曲：浜辺の歌
・團　伊玖磨　　作曲：花の街

「コールユーブンゲン(大阪開成館版)」の中で，第39章No.85までの課題内容を理解し，演奏ができること。

5．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

〇音楽に関する科目を履修していること。
〇音楽活動経験があること。

6．その他（提出が必要な書類等）

音楽活動歴（コンクール受賞等）を示す資料があれば，希望免許教科調査票とともに提出して下さい。

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：美　　術

１．教科の特色・目的

美術の授業時間減少を踏まえて、制作と鑑賞による指導が出来るバランスのとれた人材の育成を考えています。

２．専門教育の内容（レベルを含む。）

中学校美術のみならず、高校美術・高校工芸の一体化が基本的な考え方です。レベルは美術系大学と同等で、かつ幅広い領域を学ぶカリキュラムのため、それに対応した知識と持続力が求められます。

３．主な授業科目

絵画基礎Ａ、絵画基礎Ｂ、彫刻基礎Ａ、彫刻基礎Ｂ、構成デザイン基礎Ａ、
構成デザイン基礎Ｂ、工芸基礎Ａ、工芸基礎Ｂ、西洋美術史、美術理論など

４．本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

広領域にわたる作品制作に関しては、相応の知識の獲得と授業時間以外の制作（予習・復習）が必要です。また、道具類の購入や材料費、学外演習に係る経費なども必要となります。高校での美術科授業の履修、或いは部活動などの経験が望まれます。

５．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

特にありません。

６．その他（提出が必要な書類等）

これまでに制作した作品や写真資料，内容をまとめた概要等の提出を求める場合があります。

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：保 健 体 育

１．教科の特色・目的

運動やスポーツに一層の興味関心を持ち、指導の力量の備わった行動力ある保健体育の教師養成を目指しています。

２．専門教育の内容（レベルを含む。）

専門科目は、体育学関連科目、運動学関連科目、健康教育学関連科目、体育科教育学関連科目、体育実技科目に大きく分けられます。中学校・高等学校の保健体育の授業における体育理論及び保健授業の内容を配慮した授業科目を必修科目として開講し、幅広い専門知識を得るための選択科目を数多く備えています。

体育実技科目については、中学校・高等学校での実技授業を想定した指導法を実習授業として開講しています。

３．主な授業科目

実技の科目は、「体つくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「バレーボール」　「バスケットボール」「サッカー」「剣道」「柔道」「ダンス」「ラケットスポーツ（テニス、卓球、バドミントン）」「バットスポーツ（ソフトボール）」等

理論の科目は、「体育原論・スポーツ哲学」「体育・スポーツ史」「体育・スポーツ社会学」「運動・スポーツ方法論」「生理学・解剖学」「学校保健」「体育・スポーツ心理学」「体育経営・スポーツマネジメント論」「衛生学」「運動・スポーツ医学」等

教科の指導法科目は、「保健体育科指導法」Ａ～Ｄの４科目

※授業科目については、現在調整中です。

４．本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

実技指導能力と理論の理解を兼ね備えた中学校・高等学校の保健体育教師を目指す者。

５．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

特にありません。

６．その他（提出が必要な書類等）

・活動歴を証明する資料（資格・受賞・競技成績等）があれば、添付してください。

・部活動歴がなくても、得意な運動を明記してください。（体育の先生は、「専門種目は何ですか」とすぐ質問されるため。）（書式自由）

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：家　　庭

１．教科の特色・目的

家庭専攻では、中学校・高等学校で家庭科を担当する教師を養成しています。現代の子どもは、生活自立のための知識・技能を習得する機会が少なくなっています。このような子ども達に、知識・技能だけではなく、確かな生活価値観や思考･判断力、責任ある生活のための実践的態度を身につけた生活者に育てるのが家庭科教師の役割です。このため、本専攻では学生の皆さんにも、家庭科各領域の知識・技能に習熟するだけでなく、自ら生活課題を見い出し、解決しようとする態度、広い視野から物事の本質を見抜く力を養ってもらいたいと考えています。

２．専門教育の内容（レベルを含む。）

家庭科の授業科目は、衣・食・住生活に関する領域、家庭経営、保育、生活工学、家庭科教育法といった広範囲の領域で構成されています。また、現代的な課題である消費者問題、環境問題、福祉に関する科目も設けられています。それぞれの領域で、入門・概論レベルの科目から、高度な専門知識・技能を要する科目まで、指導実践力を高めるためのカリキュラムが用意されています。家庭科の特色として、実習・実験を中心にした科目が多く設定されています。

３．主な授業科目

生活経営学、消費生活論、食物学、調理実習基礎、被服学、被服科学実験実習、住居学、住生活演習、保育学、児童学原論、生活工学、生活情報論、中等家庭科教育法Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄなど。

４．本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

「専門教育の内容」や「主な授業科目」からもわかるように、家庭科の内容は多様で、自然科学、社会科学、人間科学を基礎とする領域で構成されています。免許を取得するためには、家庭経営・食物・被服・住居・保育の各領域の必修科目計１０単位を含め、教科に関する科目を修得する必要があります。免許取得科目には、調理、被服製作、製図等の実技・実習が含まれています。さらに、各教科の指導法の必修科目である中等家庭科教育法Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの４科目８単位を含み、免許に応じた単位の修得が必要です。

５．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

特に必要ありません。

６．その他（提出が必要な書類等）

特に必要ありません。

免許教科決定に関する各教科（専攻）の紹介

教科名：技　　術

１．教科の特色・目的

技術専攻は、中学校教諭（技術）一種免許状及び高等学校教諭（工業）一種免許状を取得可能な教員養成のための専攻です。専門領域は工学系から農学系、教育系にわたる８領域から構成されています。カリキュラムにおいては、系統的な講義、実験・実習や卒業研究を通して、中学校技術科および高等学校工業科に関する教育方法と技術に関する知識・原理を習得し、専門性を深め、教員としての資質の向上を図っています。また、ここ数年来の厳しい教員採用枠の中、本専攻における教員志望の卒業生は、約９割以上が教員（非常勤講師・常勤講師を含む）に採用されております。

２．専門教育の内容（レベルを含む。）

特別支援教育教員養成課程の学生は、中学校教諭（技術）一種免許状を取得するために、専門科目２０単位以上を修得しなければなりません。このうち、入学時に配布する「履修の手引き」の別表（中一種免許（技術））の備考に〇の付いている科目については、必ず履修しなければなりません。領域毎に複数の科目が開講されており、それらは基礎的な事項から応用的なものまで系統的に配列されています。可能であれば、特定の領域に偏ることなく基礎的な科目を幅広く履修した方がよいでしょう。また、本専門教育に関しては、特に実験や実習が重視されていることに留意してください。中等教科教育８単位については、技術専攻の学生と同じ科目内容であり、先の専門科目の基礎的な事項を踏まえ、実践的な指導力を養成する授業内容となります。

３．主な授業科目

製図Ａ、木材加工実習Ａ、金属材料学、機械基礎実習、電気計測技術、栽培実習Ａ、情報工学Ａ、技術科教育法Ａ、くらしと電気、インターネットと教育、食農教育の実践

４．本教科を免許教科として選択するに当たっての留意点

本教科は、理系の実験や実習を含む科目が多いため、高校においては数学や理科などの理系教科を多く履修した者が有利です。

５．本教科を免許教科として選択するに際して必要な高等学校等での科目履修履歴・活動歴

本教科については，高等学校において直接的な履修科目はありませんが，中学校の教科である技術・家庭科技術分野（通称：技術科），さらには，ものづくり全般に関して興味・関心があることが前提となります。

６．その他（提出が必要な書類等）

本専攻では、多岐にわたる様々な実習があります。受講には、ふさわしい服装等の準備を始め、特に安全面に配慮できる受講姿勢が求められます。